

作物名:ねぎ
病害虫名:シロイチモジヨトウ(学名:*Spodoptera exigua*)



写真1 ねぎの被害葉
(食害部分が白化し、一部は折れている)



写真2 ねぎの被害葉
(葉身内部に虫糞がみられる)

1 被害の特徴と診断のポイント

- ふ化幼虫が、葉身内に食入し表皮を残して葉肉を食害する。そのため、食害部分が白化して折れる。
- 3齢幼虫までは主に葉身内を食害することから、葉身内の底部に虫糞が堆積する。そのため、収穫・調製作業時に虫糞を除去する必要がある。

2 生態

- シロイチモジヨトウは、ねぎを始め、野菜、花き、大豆など、多くの農作物を加害する広食性害虫である。
- 成虫は、葉身の中央～先端部近くに、灰白～灰褐色の鱗毛で覆われた卵塊を産卵する。
- 4齢幼虫以降は葉身の外側に出て活動する個体が多くなり、5齢幼虫を経て土中で蛹になる。
- 年間4～5世代程度発生する。
- シロイチモジヨトウは飛来性害虫で、長距離を移動することが知られている。
- 宮城県では、5月頃からフェロモントラップに成虫が誘殺されるが、主に8月下旬以降に発生が増加する。ねぎの食害も、8月下旬以降から目立つ傾向にある。

3 防除方法

- 卵塊やふ化直後の幼虫の集団を早期に見つけ、捕殺する。
- 被害残さが発生源となるため、ほ場から持ち出して適切に処分する。
- 中齢以降になると薬剤が効きにくくなるため、若齢幼虫のうちに薬剤散布を行うよう努める。
- 葉身内に食入後は、幼虫に薬液を直接散布することが困難となる。
- 交信かく乱剤も利用できるが、広範囲な地域で使用することが望ましい。

4 出典

(1) 参考文献

- インターネット版 日本農業害虫事典(全国農村教育協会)
- 農業総覧原色病害虫診断防除偏第3-②巻(農山漁村文化協会)

(2) 写真

- 宮城県病害虫防除所撮影

(令和7年6月作成)